

南禅寺の南側 蹴上から三条大橋へ東西に延びる坂道 三条通

旧東海道の京口 三条通りに沿って広がる家並み 栗田口

東山越の山裾 謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地

今に残る古い鍛冶伝承の痕跡を探して

京都七口の一つ 三条通 栗田口walk 2019.10.9.

稲荷明神の化身を相槌に栗田口の刀匠 三条宗近が 名刀「子狐丸」を打つ

謡曲「小鍛冶」に謡われた鍛冶伝承

伝承の地「栗田口」の家並の中に古代の鍛冶伝承の痕跡を訪ねる街歩き

栗田口は何度も通ったことのある地で、謡曲「小鍛冶」に謡われる古代鍛冶屋敷町との鍛冶伝承の地であることはよく知っていましたが、鍛冶伝承地をキーワードに栗田口の街並みの中を歩くのは初めて。

たまたま見たTVの栗田口のルポ番組で、謡曲「小鍛冶」の伝承が紹介され、今も鍛冶神社・合槌神社が街に存在。そして栗田口の街の中心 栗田神社は祇園八坂神社と同じ出雲の鍛冶開拓神 素盞鳴尊、大己貴命を御祭神とし、祇園祭の鉾巡行の先頭を行く長刀鉾が掲げる剣が「小鍛冶」伝承の主 刀匠三条宗近が奉納した剣であるとの伝承など鍛冶町としての伝承が 今もこの街で生きてしていると知りました。

また、この地が旧東海道東山越の京口の鍛冶町であるばかりでなく、この東山から稲荷山に延びる山並みの北部一帯は古代の鉄資源帯であり、栗田口を東に越えた山科にも同じ謡曲「小鍛冶」の伝承があり、そして当地に住む刀鍛冶たちが鞆を作る土としてこの稲荷山・東山の赤土を通じて、稲荷神を信仰していたことも垣間見える。

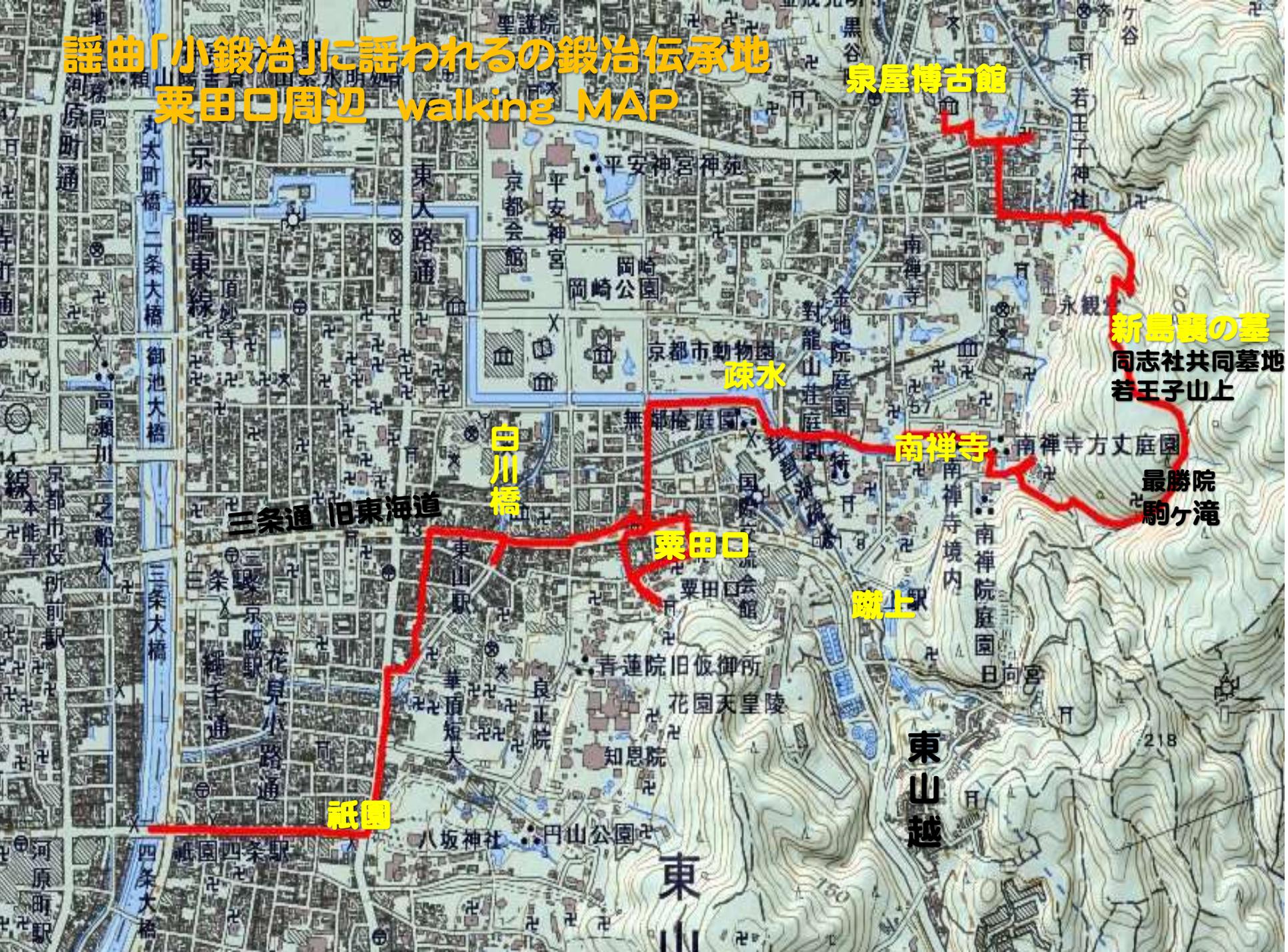
ばらばらに知っていたこの東山周辺の鍛冶伝承の知識が なにか一つに繋がっていると感じ始め、ゆっくり栗田口の街を歩いてみたいと。

そして、鍛冶町だったこの栗田口の血が今も連綿と受け継がれていると感じた街歩きになりました

粟田口は東山を越えて京都へ入る坂道 旧東海道
三条通の東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職・刀鍛冶が住
まいし、彼らが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



謡曲「小鍛冶」に詠われるの鍛冶伝承地 栗田口周辺 walking MAP



泉屋博古館

新島親の墓
同志社共同墓地
若王子山上

南禅寺

最勝院
駒ヶ滝

栗田口

蹴上

東山越

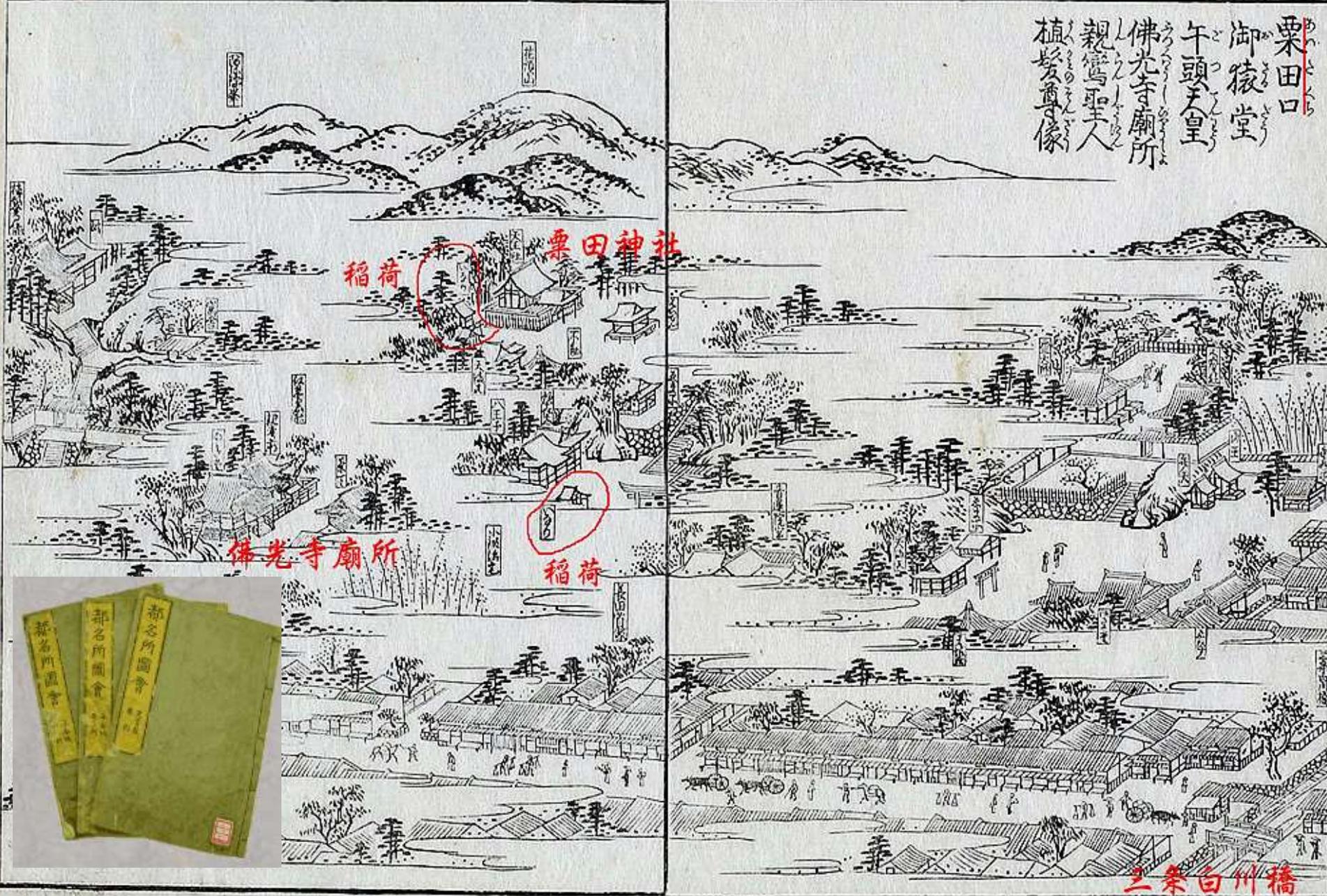
白川橋

祇園

三條通 旧東海道

東山

栗田口
御猿堂
午頭天皇
佛光寺廟所
親鸞聖人
植髮尊像



拾遺都名所図会(1787)に描かれた栗田 <http://blog.livedoor.jp/mudamoe/archives/6036433.html>

栗田神社・稲荷神社(2ヶ所)仏光寺御廟 白川橋の名前などが見える

三条宗近が稲荷明神の化身とともに作刀する謡曲「小鍛冶」

謡曲「小鍛冶」と三条宗近の名刀「小狐丸」作刀の伝承地

◎ 京都三条粟田口【粟田鍛冶町・粟田神社・鍛冶神社・合槌稲荷神社】

◎ 山科花山稲荷神社



京都粟田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稲荷明神の狐姿の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」

この伝承が刀工三条宗近が住んだという京都三条粟田口や稲荷伝承が残る山科にある。

すぐ北に連なる東山如意ヶ岳周辺は古代の鉄鉱石資源帯 南西の麓粟田口には数多くの陶工たちの鍛冶屋敷があり、また 稲荷山が見晴らせる南麓の山科には古代の製鉄遺跡が数多く残る。

古代の製鉄関連地の刀鍛冶の伝説と稲荷信仰とが合体してできた曲といわれる。



山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相植は稲荷大明神



三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地
遠光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯笼の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中臣遺跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。遠光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(鑄鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより



京都市地下鉄東西線樺辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
謡「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

- ◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
 - 坂上田村麻呂墓 ● 西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ● 稲荷伝承の折上稲荷
 - <https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>
- ◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26
 - <https://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1309yamashina00.htm>
- ◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.
 - <https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>



京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説



謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承

名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるとより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。



宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



琵琶湖疎水 蹴上インクライン 2019.10.9.

南禅寺からまっすぐ坂道を下ると琵琶湖疎水のインクラインをくぐる橋の上
北側に鴨川に続く琵琶湖疎水の船着き場が見える

反対側は蹴上へ登るインクライン 蹴上から琵琶湖疎水の山科運河に入って
琵琶湖へ出る。 また この琵琶湖疎水の水を使った水力発電所を使って
日本で初めて京都で市電が走った。

謡曲「小鍛冶」の舞台として広く知られる京都粟田口 三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承 **京都三条粟田口粟田鍛冶町神社**

夢のお告げを受けた一条天皇(980~1011)の命により、勅使の橘道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近のもとを訪れ、劔を打つよう命じます。

宗近は、自分と同様の力を持った相槌を打つ者がおらず、打ち切れないと訴えますが、聞き入れられず、進退きわまった宗近は氏神の稲荷明神に助けを求めて参詣。そこで不思議な童子に声をかけられ、少年は宗近を励まし、相槌を勤めようと約束して稲荷山に消えていきました。

家に帰った宗近が身支度をすまして鍛冶壇に上がり、礼拝していると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相槌を勤める」と告げる。先ほどの少年は、稲荷明神の化身だった。

明神の相槌を得た宗近は、無事に劔を鍛え上げました。

こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名劔「小狐丸」が出来上がった。

明神は小狐丸を勅使に捧げた後、雲に乗って稲荷の峯に帰っていきました。

◎ 製鉄に従事するものを大鍛冶というのに対し、刀鍛冶を小鍛冶と称していました。

京都三条通の粟田口は古くからの刀鍛冶の居住地。

稲荷神社の祭神は素盞鳴尊、大己貴命で、製鉄・鍛冶と関係深い神、刀工たちの氏神として信仰されていたという。

また、鍛冶炉の鞆には山科稲荷山の土を用いていたとの伝承もある。

◎ 宗近は実在の平安中期の刀匠ですが、生没年不詳ですが、永延(987-989)の頃京都三条に住したと伝え、小狐丸をはじめ幾多の刀劔を造ったという。

現存するものとして三日月宗近などがあります。

また、祇園祭の長刀鉾の長刀は宗近が奉納したものとされています。

作刀にこのころの年紀のあるものは皆無であり、その他の確証もなく、ほとんど伝説的に扱われている。代表作として伝えられる国宝「三日月宗近」があります。

東山越を挟んで東の山科にも同じ三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承が残っている

とちらも北に古代の鉄資源帯如意ヶ岳製鉄遺跡群 南には稲荷信仰の中心稲荷山がそびえる位置にあり、出どころは同じと思われる

謡曲「小鍛冶」の舞台京都栗田口に残る鍛冶伝承地の痕跡

- ◎ 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑 1917年建立
東山区栗田口鍛冶町(仏光寺本廟内)

拾遺都名所図会によると、佛光寺本廟境内に
刀剣を鋳るときに用いた井水があったという

- ◎ 合槌稻荷神社 創建年代不明

栗田口中ノ町、栗田神社の向かいの三条通りに面した場所にある。

三条通り沿いの鳥居から隣接する民家の外壁に沿って細い参道が続いている。

境内には正一位合槌稻荷大明神を祀る祠があり、この祠は平安時代の刀匠、三条小鍛冶宗近が稻荷大社に祈願し、狐とともに宝剣小狐丸を打ちあげたという逸話の舞台ともいう。

- ◎ 鍛冶神社 栗田神社の参道入口石鳥居脇にある栗田神社の末社

祭神は天目一筒神 三条小鍛冶宗近・栗田口藤四郎吉光を祀る鍛冶の神様。

この栗田口の数多くの刀工たちを顕彰するために創建されたというが、定かでない。

- ◎ 栗田神社

清和天皇貞観十八(876)年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。

その際 勅使従五位上出羽守藤原興世が、感神院祇園社(今の八坂神社)に祈願。

その満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。叡慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。

老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王(ゴズテンノウ=スサノオノミコト)に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言われて消えられました。

勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。。

また一説には、孝昭天皇の分かれである栗田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。

八坂神社と同じかじ神・出雲神 素盞鳴尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。旧社名は、感神院新宮・栗田天王宮。明治になり栗田神社と改称された。詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。

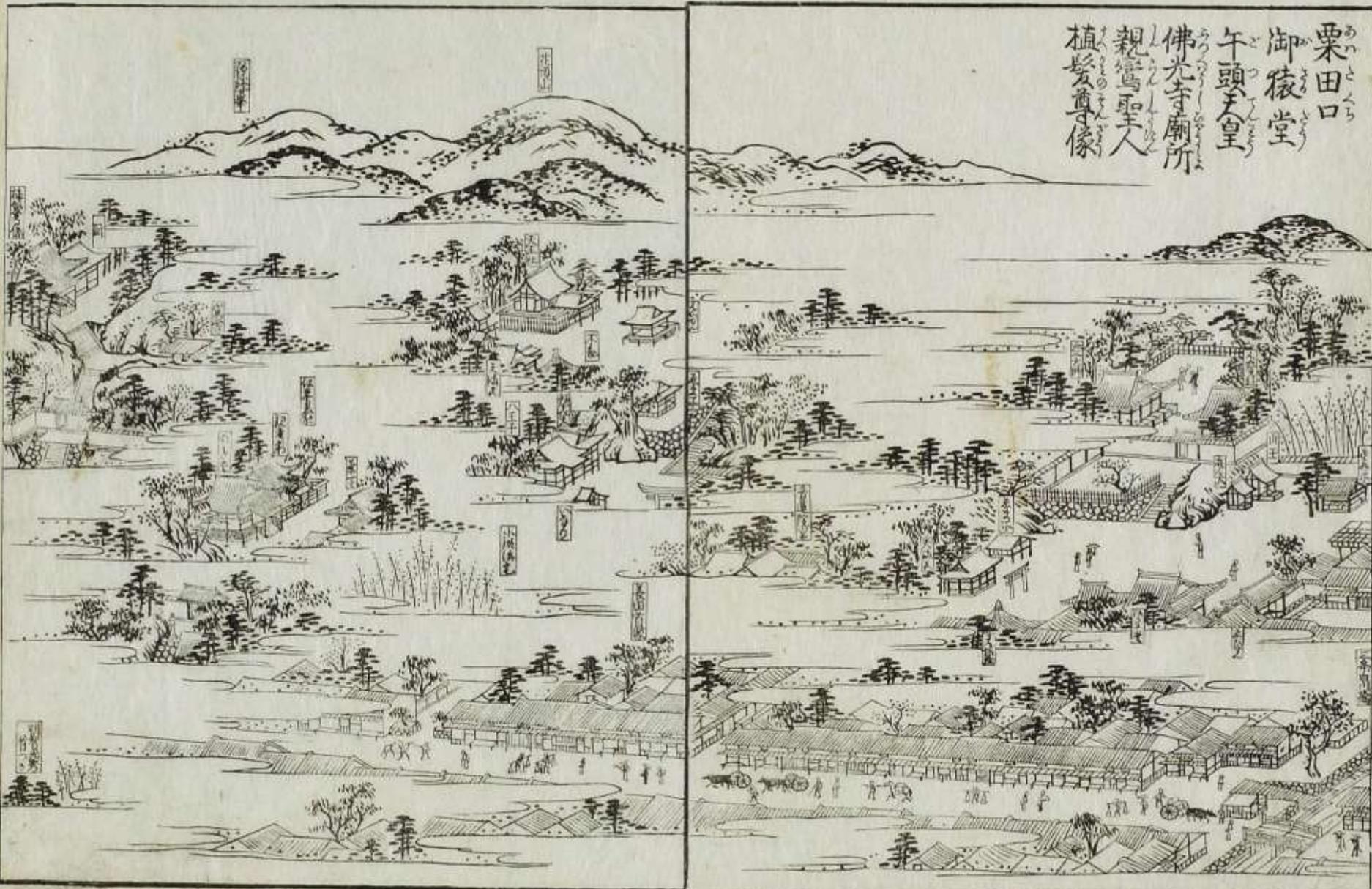
京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、現在でも旅行に際し絵馬を奉納したり、お守りを買って求める人がいる。

境内には鍛冶神社 そして直ぐ向かいにの街中に 合槌神社があり、いずれも栗田神社の末社。

- ◎ 栗田口鍛冶町 この地に数多くの刀工・鍛冶屋敷があったことを今の町名に残している



栗田口
 御後堂
 午頭天皇
 佛光寺廟所
 親鸞聖人
 植髮尊像



拾遺都名所図会(1787)に描かれた栗田口 拾遺都名所図会データベースより
 栗田神社・稲荷神社(2ヶ所)仏光寺御廟 白川橋の名前などが見える



疎水に沿って西へ下り、途中で南に折れると東山を越えて並行に走る三条通り
この三条通り界隈が京口の一つ栗田口 2019.10.9.



蹴上から長い坂道を京都の街に下ってくる山上通り 栗田口 2019.10.9.

粟田口は東山を越えて京都へ入る坂道 四条通の
東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職が住まいし、
鍛冶職たちが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



- ◆ 南禅寺から疎水べりを通して西へ下り、蹴上からの長い坂道三条通に出れば栗田口 謡曲「小鍛冶」の舞台に残る鍛冶伝承の痕跡を訪ねて歩く。

2019.10.9. walking Map





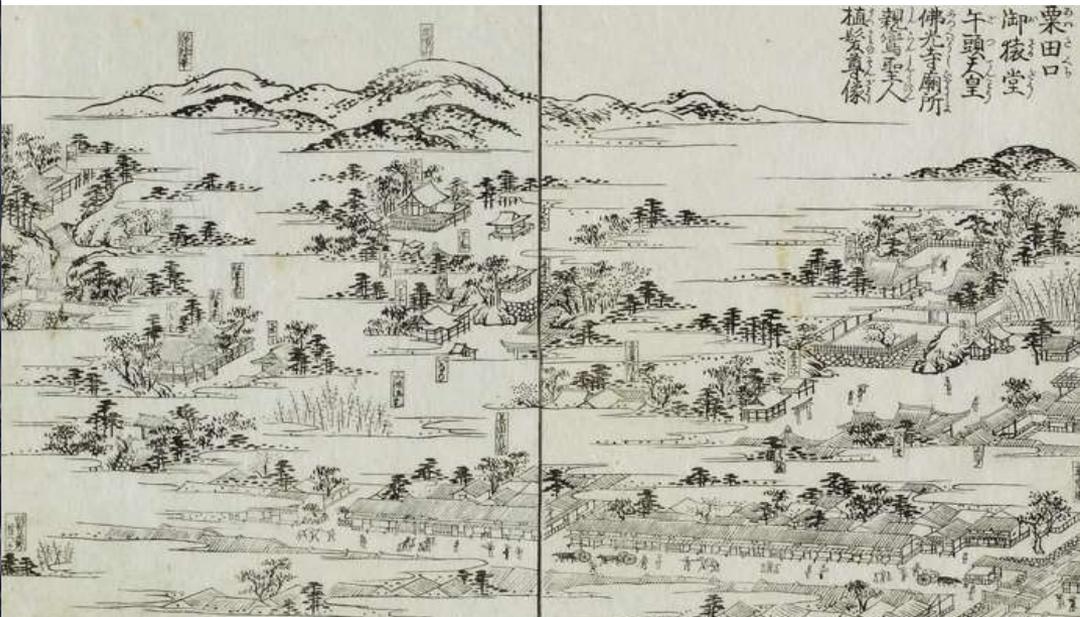
栗田口は東山を越えて教徒へ入る坂道三条通の
東側蹴上から西の神宮道までの間界隈だそうだ



三条小鍛冶の古跡



『拾遺都名所図会』:佛光寺本廟境内に刀剣を鑄るときに用いた井水があったという



疎水沿いの道から南へトラバースして三条通りに出るとすぐ前に粟田神社の赤い鳥居が見える。粟田口にある一番大きな神社。何度も前を通過したことがある神社ですが、境内に入ったことがない。鍛冶伝承をキーワードに粟田口を歩くのに、まずお参りしておこうと三条通りを南に渡り、粟田神社へ。そして、鍛冶伝承で訪ねる鍛冶神社・合槌稻荷神社がこの粟田神社の摂社であると初めて知りました。絵馬を売るおばさんは詳細は知らないが、鍛冶神社は入口の石の鳥居横・合槌稻荷神社はまっすぐ正面を出て四条通の向かいの赤い鳥居と教えてもらった。



三条通の坂道の中ほど赤い鳥居が建つ粟田神社参道入口前

2019.10.9.



三条通りの向かい 粟田神社入口

三条通り 粟田口 粟田神社入口前 この周辺に刀鍛冶三条宗近の屋敷があったという



合槌稻荷神社の入口



三条通りの向かい 粟田神社入口でした



粟田神社のすぐ前が合槌稻荷神社の入口でした



三条通り 栗田口 栗田神社入口前

2019.10.9.



栗田祭

京の祭
一千年の歴史



令和元年 10月

12日(土)

18:00~ 神賑行事
石見神楽・夜店
22:00~ 出御祭
おいてまつり

13日(日)

17:30~ 夜渡神事
大燈呂巡行

14日(祝)

12:00~ 神幸祭
神輿渡御・剣鉾巡行

15日(火)

11:00 例大祭
式包丁奉納

旅立守護
栗田神社

御祭神：スサノオノミコト
オホナムチノミコト
所在地：東山区栗田(鍛冶町)
TEL：075-531-3154
HP：http://www.mjpa.jp



鍛冶神社(末社)

栗田神社
境内図

粟田神社

旧称 感神院新宮
栗田八大王子社

祭神

建速素盞鳴尊 大己貴尊

左殿 八咫小奴美神

五十猛神

大産彦神

大産枝神

右殿 孤津岐神

須勢理岐神

大歳神

含福魂神

外殿 奇福田岐神

神大市袋神

佐須良岐神

合祀 竹生嶋社

篠田彦社

度命社

天沼中玉神

日吉社

和歌三神

手力雄社

宗徳天皇

由緒

古くは山城國愛宕郡下栗田郷に属し、栗田郷は上栗田(北白川浄土寺、原谷岡時)下栗田(三條以西)に分かれ、此地は上古のころ孝昭天皇(人皇五代)の皇子天足彦国押人命を祖とする一族が住み、蘇物と穿ち栗や武を主食として中古越前神宮が奉祀され、や一獲熱田の社人として移り土地名を残すのみならず、その氏神として上古よりあり、人皇五十六代清和天皇貞観十八年(八三三)悪疫流行のため奉行藤原興世に勅して都の東白雲の池立つ郷の靈地に一社を建つ、此當社の社位による創祀である、又依り往古八坂神社と感神院と稱するに對し、当社と感神院新宮と稱し、祇園会無き年は當社の祭祀として祇園会の代りとなす記録あり、依りて当社に祭祀は祇園会の始めの形なりと云う。

御神徳

厄清波(厄災平癒) 商工経営 縁結び 安産 旅行安全

祭日

十月九日出御祭 夜渡り神事 十日神事祭 十五日大祭 神事祭には鉦鉦の盥洗たる阿古陀鉦(鉦)と始め地蔵尊首拜 桐鉦 其他總數十八本の鉦鉦の供奉は特に美麗なり

摂末社

一 福荷社 祭神 含福魂命
由緒 應永二年有達院門前、尊皇親王勅請、北向福荷神社と稱す、注古三條小飯坂余道、因縁あり、神祇と祀らんとす、
二 惠美須社 祭神 少名彦神

由緒 当社より東約一杆、末筋の夾谷と稱する處に鎮座ありし、六百年前大出水山崩れ、馬流出止まり給ひ、處を現在夾谷と稱す、源義経奥州下向の時、源家再興と祈願せらるに、神像は二、三、余年前、佐救大師の自作と云、出世惠美須神社と稱す

一 大神宮 祭神 天照大神 八幡社
直受靈神 春日社

由緒 在原兼平御伊勢の齋宮の宮と結ばれ、その子孫高階、

奉宮出来ず、自宅に社と奉祀す、京三大神宮の一社なり

一 多賀社 祭神 伊弉諾大神 由緒 兼平達院門前内に社あり、祭祀す

一 天満宮社 祭神 菅原道真公 世に朝日天満宮と稱し、海東三十五社の一なり

一 鍛冶社 祭神 天一目神 三條町鍛冶常道公 由緒 宗道百五の由緒あり、
由緒 鍛冶社

一 吉兵衛神社 一 兩社共栗田の地の守り神

京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、また、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集める。 祭神は素盞鳴尊、大己貴命。 そして、摂社に鍛冶神社がつながっていることなど、鉄の王国出雲の鍛冶神とのつながりをもうかがわせる神社である。



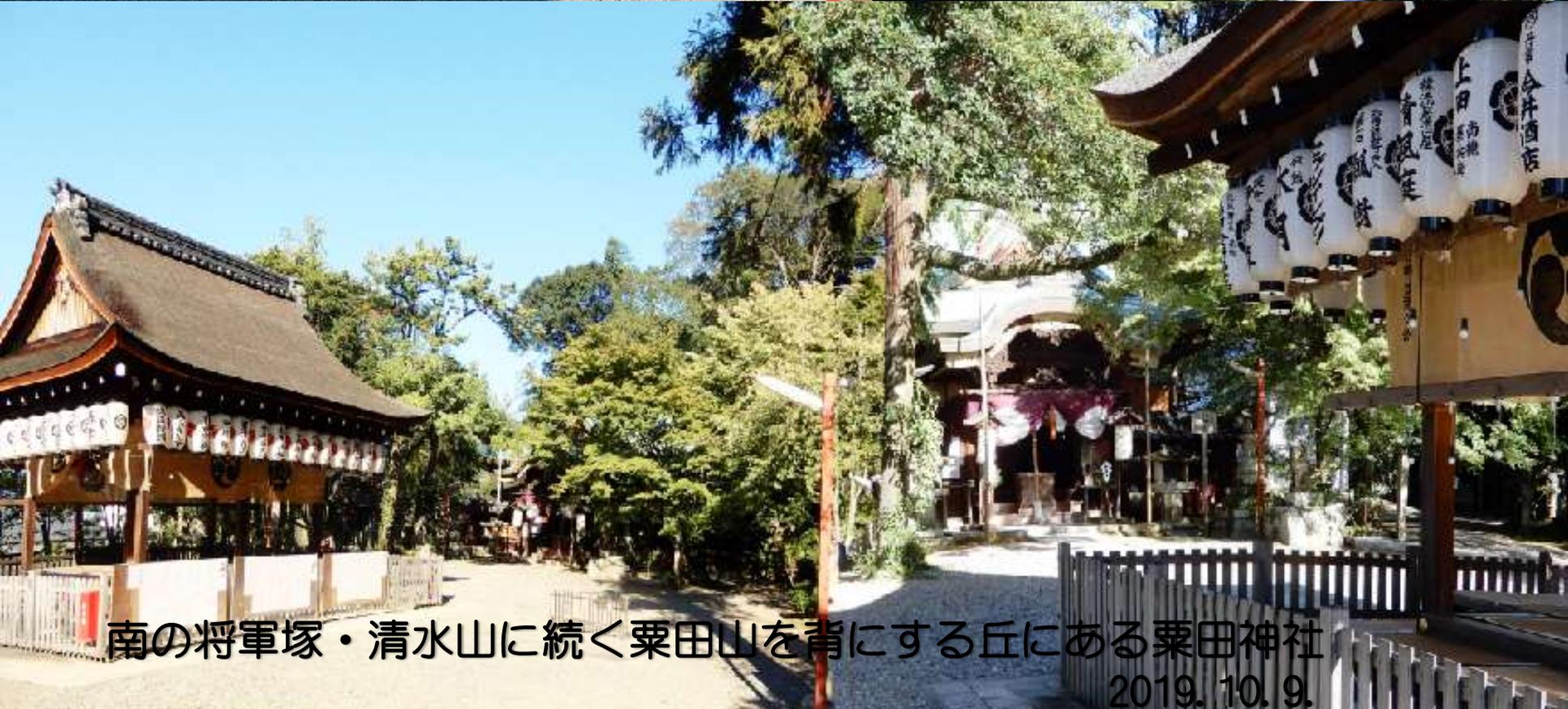
粟田神社参道 石鳥居前 2019. 10. 9.
三条通りから一筋南に入ると静寂そのものです



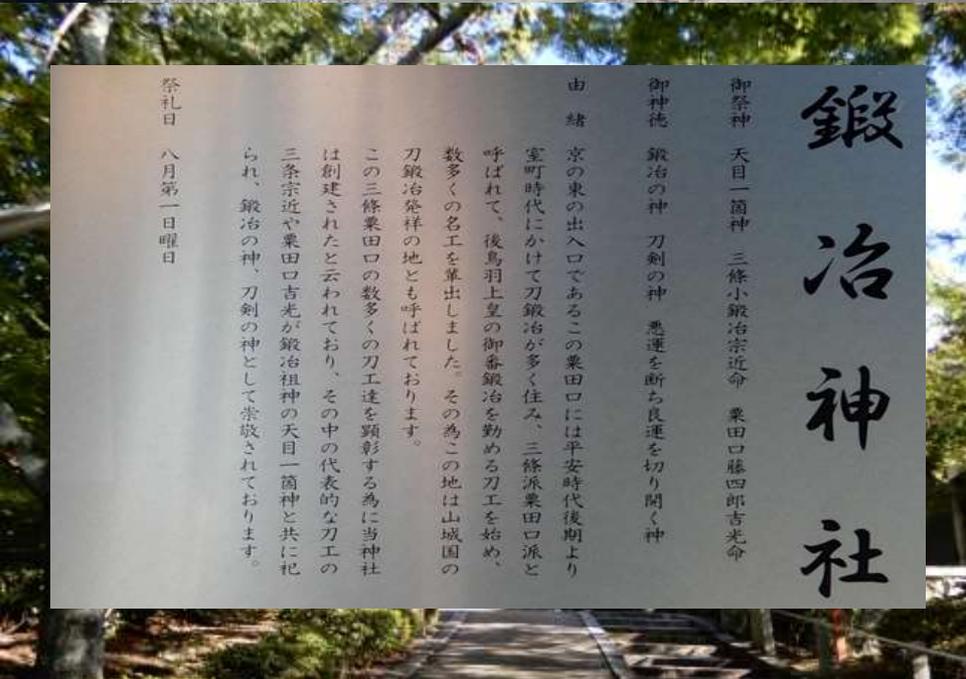
粟田神社参道 石鳥居前 2019. 10. 9.

参道の坂道を登った丘に本殿がある。また、参道の左脇が駐車場になっていて、その中に鍛冶神社

また、左手に三条通よりも一つ南に入った道に沿って家並みがつづくが、この周辺が鍛冶町 もう、鍛冶の痕跡は残っていないが、かつてはこの東山の山裾の傾斜地に多くの鍛冶屋敷があったようだ。



南の将軍塚・清水山に続く栗田山を背にする丘にある栗田神社
2019. 10. 9.



鍛冶神社

御祭神 天目一箇神 三條小鍛冶宗近命 粟田口藤四郎吉光命

御神徳 鍛冶の神 刀剣の神 悪運を断ら良運を切り開く神

由緒 京の東の出入口であるこの粟田口には平安時代後期より

室町時代にかけて刀鍛冶が多く住み、三條派粟田口派と呼ばれて、後鳥羽上皇の御番鍛冶を勤める刀工を始め、数多くの名工を輩出しました。その為この地は山城国の刀鍛冶発祥の地とも呼ばれております。

この三條粟田口の数多くの刀工達を顕彰する為に当神社は創建されたと云われており、その中の代表的な刀工の三條宗近や粟田口吉光が鍛冶祖神の天目一箇神と共に祀られ、鍛冶の神、刀剣の神として崇敬されております。

祭礼日 八月第一日曜日



鍛冶神社 祭神は天目一筒神 三条小鍛冶宗近・粟田口藤四郎吉光。
この粟田口の数多くの刀工たちの顕彰のために創建されたというが、定かでない。

粟田神社鳥居前より、鍛冶町の家並の中坂道を三条小鍛冶古跡の碑がある佛光寺本廟まで行って、そこから三条通りに出て合槌稲荷神社へ。そこから三条通を西へ粟田口の西端白川橋まで歩いて今日の粟田口walkを完了に



三条小鍛冶の古跡



『拾遺都名所図会』佛光寺本廟境内に刀剣を鑄るときに用いた井水があったという



栗田口鍛冶町

栗田神社 石の鳥居前 2019. 10. 9.

古代この蹴上へと続く東山の山裾の傾斜地に多くの鍛冶屋敷が続いていた。
今は三条通を一筋入った道筋 そんな繁栄の槌音もきこえぬ静かな街並みが続く



佛光寺本廟前 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑があると聞きましたが、
様子がよくわからず、今回は境内に入って本堂前から引き返しました

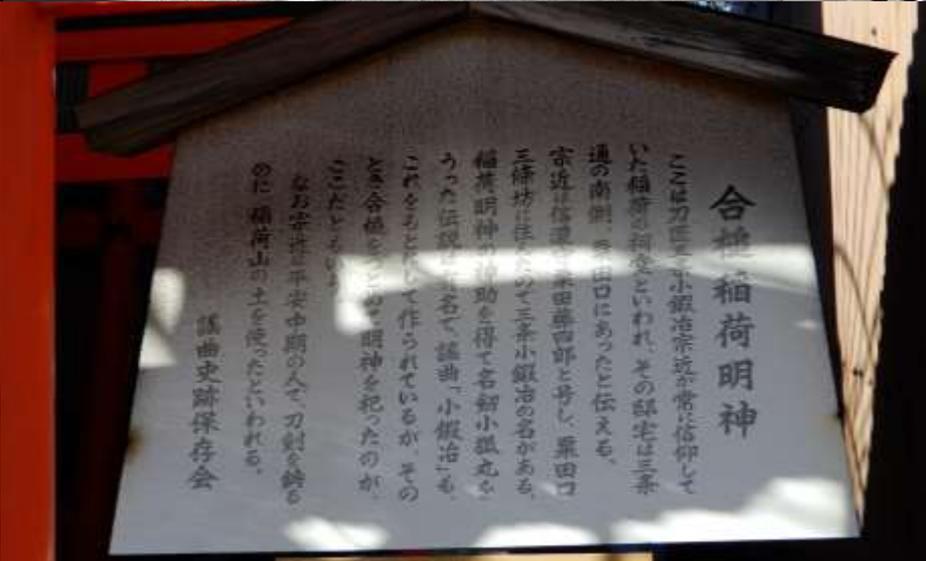


佛光寺 本堂

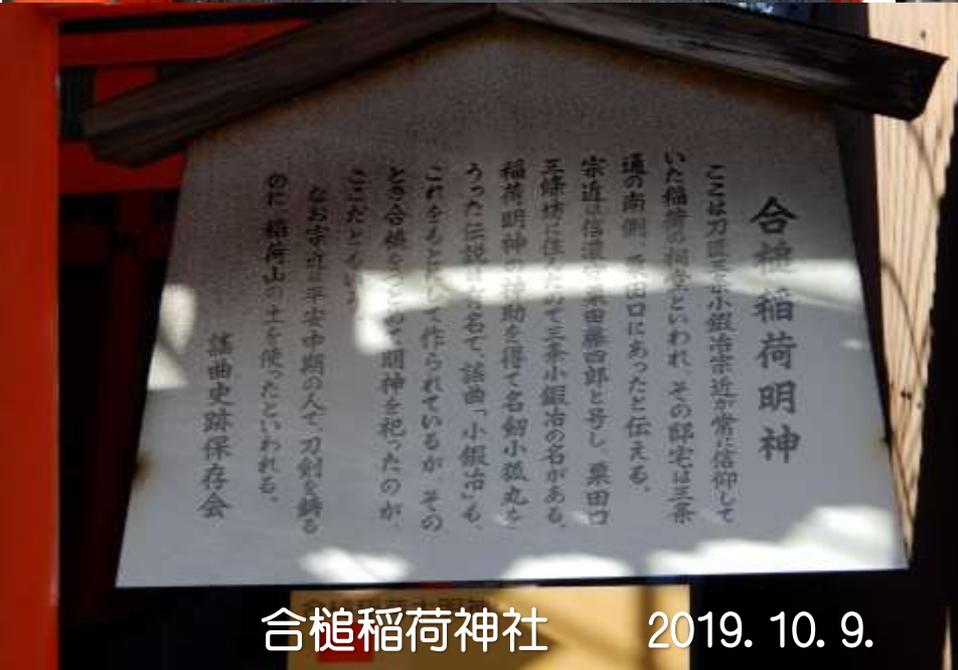


三條小鍛冶の古跡

附近は平安中期の刀匠で姓は橘信濃
守兼田藤四郎といふ、東山奥田口三茶坊
に仕込んだ三茶小鍛冶といふ所した
る刀手丸丸きじゆは、その刀剣を造つ
たが、現存するものと、三日月御共
どがある。福徳の長刀の折頭は、その
は、附近の姓の藤原氏を造る、鍛冶
し、田舎に平納し、そのと、われ、時に
有る、
神代も、西園寺に、名も、佛光寺、東山
境内に、村を、勢を、に、用い、に、井水、有
の、た、に、われ、(一) 藤原氏、(二) 藤原氏、
能、田、氏、(三) 藤原氏、
また、奥田口、村に、ある、要の、神、所、に、
内、に、御、堂、あり、ま、し、神、の、倉、に、
二、三、刀、を、造、る、に、使、は、れ、た、と、い、ふ、
故、の、御、堂、の、所、に、
京都市



三條通 粟田神社の赤い鳥居の向井側に合槌稻荷神社の入口がありました



合槌稻荷神社 2019. 10. 9.

三条通りの北へ町家の中の狭い路地の奥



今もこの街の人々の信仰を集め、愛されている姿
町家の中に埋もれて、新らしく整備された合槌稻荷神社がありました



神宮道の角に「刀剣の店 玉山名史刀」という刀剣古美術商の店がありました
粟田口に今も残る刀鍛冶の痕跡がここにもありました 2019. 10. 9.





栗田口の西端 三条通にかかる白川橋で 2019.10.9.

銀閣寺奥から南の祇園へ流れ下って行く白川

今日は静かですが、休日ともなれば多くの人が行き交う場所
都絵図に描かれた人の賑わいが今も残る場所かもしれません

粟田口は東山を越えて京都へ入る坂道 旧東海道
三条通の東側蹴上から西の神宮道までの界限
かつてこの界限には数多くの鍛冶職・刀鍛冶が住
まいし、彼らが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。



鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ 東山の山裾を巡り、謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地 京都七口の一つ 三条通 栗田口を訪ねました 2019.10.9.

- ◎鹿ヶ谷 泉屋博古館の特別展見学とゆったりと時が流れる東山遠望
- ◎若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る
- ◎謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口

京都東山の鹿ヶ谷にある泉屋博古館に出かけるのを機会に以前から気になっていた京都東山山麓 鹿ヶ谷泉屋博古館を起点に若王子山を登り、静寂の中で眠る新島襄の墓にお参り。山中 幻想的な雰囲気漂う駒ヶ滝の行場から南禅寺へ。そして、今日一番の目的 謡曲「小鍛冶」に謡われた鍛冶伝承の地 東山越京口の栗田口を訪ねる古代の鍛冶伝承地の痕跡walk

快晴に恵まれ、久しぶりの初秋京都のぶらぶら歩きを楽しめました。良く知る東山界隈ですが、知っているようで知らなかった界隈 また一つ新しい道と発見 うれしい初秋京都東山山麓歩きが出来ました。久しぶりに訪れた博古館と好きな十二神将に出会えるなど久しぶりの仏像観賞 そして、知っているようで知らなかった東山の山裾 若王子山 念願の新島襄の墓参り、幻想的な駒ヶ滝の行場 そして、山道のあちこちで見かけた鉄含有の赤い土。古代の鉄資源の山の痕跡 稻荷明神・鍛冶伝承のルーツかも初めて鍛冶伝承の地としてその痕跡を楽しみに歩いた「栗田口」 具体的な痕跡は見られませんが、鍛冶町の名前そして現代的になってはいるが、鍛冶神社・合槌神社が存在。何よりも古代からの多くの人が行行き来し、 繁栄した旧東海道の雰囲気が残る街並みも色マイメージが膨らんでうれしい。 今も街の中心に「栗田神社」。出雲神・鍛冶神 素盞鳴尊、大己貴命が御祭神。 祇園祭の主役長刀鉾の剣か小鍛冶伝承の三条宗近奉納の剣であることなども含め この栗田口が鍛冶町だったことを今も連綿として受け継いでいると感じた街歩きでした。

鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
東山の山裾を巡り、謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地
京都七口の一つ 三条通 粟田口を訪ねました 2019.10.9.



参考：和鉄の道・Iron road 掲載 関連主要記事



- ◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
● 坂上田村麻呂墓 ● 西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ● 稲荷伝承の折上稲荷
<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>
- ◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26
<https://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1309yamashina00.htm>
- ◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.
<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>
- ◎ 鉄の風景・鉄のモニュメント京都 史跡 琵琶湖疎水 蹴上 2015.11.7.
「日本最初の発電所 蹴上発電所 水圧鉄管」と「インクライン」
<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1512keage00.htm>
- ◎ 京都 祇園祭 2011 2011.7.16.夕 宵山 & 2011.7.17. 山鉦巡行
<https://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/walk8/1108gion00.htm>



泉屋博物館
 泉屋の歴史を伝える博物館
 泉屋の歴史を伝える博物館
 泉屋の歴史を伝える博物館



石の道は、昔の住人及創業者の足跡を今も残している。2019.10.9.

古王山山上被地へ登ってゆくと、ところどころにのり石が敷き詰められた杉木林の中の山道を山腹に沿って登る。2019.10.9.



同志社の創立者新島襄と左妻八重の墓 2019.10.9.

崖の岩壁をまわりこんだ朝霧谷筋の小さな窟の前、階段を登って苔むした岩壁の中へ。2019.10.9.

行場前の橋からながめる朝ヶ滝全景。2019.10.9. 橋くわてよく見えなかった行場がよくわかるのですが、中央の朝の滝は明るすぎてよく見えず。

